

たろばな

京都大学男女共同参画推進センター Gender Equality Promotion Center

「女子高生・車座フォーラム 2019」を 12 月 22 日（日）に開催

京都大学男女共同参画推進センターでは、京都大学での学生生活や研究者の仕事を知ってもらおうと「京都大学を知ろう 学生・研究者と語ろう」を企画しています。フォーラムでは、理系・文系それぞれにどんな研究分野や領域があるのか、なぜ今の分野を選んだのか、といった大学進学に関わる話をはじめ、試験勉強、進学後の大学生活、研究の面白さや苦労など、さまざまなテーマについての疑問に、学生や研究者がお答えします。保護者の方々の疑問にも、学部生や大学院生がお答えします。

申込期間は、2019 年 9 月 24 日（火）～11 月 22 日（金）です。下記センターホームページをぜひご覧ください。

<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

日 時 2019 年 12 月 22 日（日）

会 場 京都大学国際科学イノベーション棟 シンポジウムホール、他

参加費 無料

募集定員 女子高校生 100 名程度

保護者 50 名程度（先着順）

申込方法 男女共同参画推進センターホームページから

申込期間 2019 年 9 月 24 日（火）～11 月 22 日（金）



Topic 保活入門 その2 就学ポイント

前回で紹介したように、本年度から、京都市の基本指数において就学ポイントは就労ポイントと同等に扱われることになりました。基本指数は従事する時間に応じて決まるのですが、就学ポイントが就労証明書だけで事足るのに比べて、就学ポイントを適正に認めてもらうために特別な苦労を要する事情があるようです。

就学のカテゴリーで申請する場合、添付書類として在学証明書の他に「スケジュール申告書（時間割でも可）」を求められています。自己申告のスケジュール申告書の通りに従事時間が認定されるならよいのですが、そうはいかないでしょう。学生にとっては、授業がない時間帯も自由な時間というわけではありませんから、時間割だけでは証明書類として不十分です。授業の予習・復習、さらには自身の研究テーマについての調査や実験、場合によっては研究室の業務の手伝い、医療系の場合にはさらに診療などに従事することもあります。このような実態を書類で証明することは難しく、窓口となる福祉事務所に、丁寧に根気よく説明をしていかざるを得ないのが実情のようです。

日本では、学生は、制度上授業料を払うことになっていますが、学生が従事する業務の社会的価値は、雇用されている研究者のそれと全く変わりありません。保活が必要な大学院生に、雇用されている研究者に劣らず多忙な生活を送っている実態について、一筆書いて証明するなどの形で協力することも、指導教員の業務の一つといえるでしょう。名古屋大学では、指導教員が学生の就学・勤務状況を証明する書式を用意しています（注1）。

医学部の大学院生には、非常勤先で診療（場合によっては夜勤）をしながら研究を続ける生活実態を理解してもら

うために苦労する例が後をたちません。外勤先に就労証明書を書いてもらうのは当然として、認可保育所への入所を認めてもらうために、多忙な実態を伝えようと、ありとあらゆる手段を講じる涙ぐましい努力について、さまざまな体験談がWGにも寄せられています。

日本学術振興会（学振）の特別研究員（PD）も、難しい現実と直面します。特別研究員（PD）は、学振とも受入機関とも雇用関係にないため就労扱いにならず、学生でもないのので就学扱いにもなりません。学振は、研究員としての身分は証明してくれますが（注2）、勤務実態が多様な個々の研究員の就労時間を証明してくれるわけではありません。ただ、そのウェブサイトには、このような制度の公式の説明書があり、保育所入所手続などで利用できるようになっています（注3）。この身分で保活をした人には、別途事情を説明した文書を添付し、所属する研究室の教授などに勤務実態について証明してもらい、何とか認可保育所の利用を勝ち取ったという例もあるようです。

本年の5月、幼児教育・保育を無償化する改正子ども・子育て支援法が成立しました。これにより、本年10月から、3～5歳児は原則全世帯において、また、0～2歳児は住民税非課税の世帯において、認可保育所や認定こども園、幼稚園の利用料が無料になります。無償化により保育の潜在的な需要が掘り起こされ、待機児童問題は深刻化するおそれがあることが指摘されています。

WGでは、来年4月入所を目指す方その他研究者の保活に関心を寄せる方のために、保活情報交換会を企画しました。保活経験者にその経験をご披露いただいたり、紙面ではお伝えしきれない情報を交換したりする場にしたいと考えています。関心をお持ちの方は気軽にご参加ください。詳細は、最終ページ下の案内およびバックナンバーのサイトをご覧ください。

（注1）http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/work_balance/kinmu/

（注2）下記掲載のウェブサイトにおける様式10。

https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_tebiki/yoshiki/saiyouchu.html

（注3）注3掲載の様式10の参考書類「特別研究員制度をご存じない方へ」。

コラム「みんな どうしてる？」バックナンバー <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/column/mina/>

（文責 育児介護支援事業WG、専用アドレス：ikwg@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp）

ウィメンズ・フォーラム京都 2019

6月27日（木）9時30分より国際科学イノベーション棟シンポジウムホールにおいて、「社会・経済のためのウィメンズ・フォーラム京都2019」が開催されました。ウィメンズ・フォーラムは、社会・経済問題を女性の視点から議論し、新しい発想で解決策を提示することを目的に2005年に設立された国際会議です。

はじめに、稲葉 カヨセンター長、理事・副学長より開会の挨拶がありました。その後、小池 百合子東京都知事が講演を行い、東京都が進める再生可能エネルギー利用の拡大や女性の活躍を推進するための政策について

紹介しました。続いて、「機構関連科学・技術・イノベーション分野での女性の活躍」「女性の目からみたエネルギー利用」「気候分野でのイノベーション、起業」の3つのテーマをもとに、パネルディスカッションが行われ、活発な意見のもと盛会に終了しました。



令和元年度第2期研究・実験補助者雇用制度 利用者決定

令和元年度第2期研究・実験補助者雇用制度の利用者は、11名（女性9名、男性2名）の方に決まりました。

研究・実験補助者雇用制度とは育児・介護等で十分な研究・実験時間がとれない研究者に対し、研究又は実験

業務（注：事務及び教育関係の業務は支援対象外）を補助する者の雇用経費を負担するものです。募集は、年2回です。本事業は、女性研究者に限らず、男性研究者も対象となります。また、研究分野の文系・理系は問いません。補助者未定でも申請できます。

2019 年度日経ウーマノミクスフォーラム 「Be Ambitious! 夢に向かって決意の瞬間」

7月17日（水）大阪ハービスホールにおいて、2019年度日経ウーマノミクスフォーラム「Be Ambitious! 夢に向かって決意の瞬間」が開催されました。

京都大学も協力大学としてブースを出展し、高校生グループディスカッションでは、【製薬】【生活・健康】【エネルギー・環境】【食品】【IT】と5つのグループにそれぞれサポート役として本学学生が参加しました。また、大学・企業によるミニセミナーでは、大学院理学研究科生物科学専攻の学生磯田 珠奈子さんが「ウキウサってなんだ?～世界一小

さい花に魅せられて～」と題して講演しました。

参加者からは、「様々な学校の方との交流で、たくさんの刺激をもらえました」「各ブースで自分の興味あることをより詳しく知ることができ、とても参考になりました。自分の将来のイメージが以前よりも明確になりました」等、多くの声が寄せられました。



京都大学女性教員懇話会セミナーおよびランチ会

セミナーやランチ会を開催しております。ご友人などお誘い合わせてどなたでもお気軽にご参加ください。

- ランチ会 2019年9月2日（月）12時15分～（途中入退室自由）
場所：吉田泉殿 1階セミナー室 持ち物：ご自身の昼食・飲み物
- セミナー 2019年11月26日（火）12時15分～14時（途中入退室自由）
場所：男女共同参画推進センター会議室 持ち物：ご自身の昼食・飲み物
講師：吉田 万里子氏（京都大学国際高等教育院教授）
演題：平等な機会と待遇に係る労働法と社会保障法についての国際比較
～欧州法における「働く女性」の扱い～

★参加連絡（任意）：女性教員懇話会（female.jimgroup@gmail.com）

京都大学女性教員懇話会のご紹介

沿革 京都大学女性教員懇話会（通称：懇話会）の発足は、1981年に遡ります。その前年、ユネスコなどの主催する「婦人のための教育・訓練・雇用に関するセミナー」が埼玉県で開かれた際、一部の参加者が京都を訪れ、京都大学の女性教員と交流を持ったことがきっかけでした。その時の参加者はわずか2名でしたが、2人の間で、これを機会に学内の全女性教員に呼びかけ、情報交換と親睦交流をはかる集まりをもってはどうかということが話し合われました。その後に賛同者を募り、何度かの協議を経て、1981年10月31日、楽友会館において第1回総会を開催し、「京都大学女性教員懇話会（のちに京都大学女性教員懇話会と名称変更）」が発足しました。1985年からは京都大学総長と懇話会代表者との懇談会が開催されるようになり、これは毎年の恒例行事

となっています。

会員と活動 本会は京都大学に在籍するすべての女性教員・研究員（大学院生や学生を含む）を会員として想定しており、京都大学で研究する全ての女性のための自主組織です。（1）京都大学における女性教員相互の親睦と交流、（2）各自が当面する諸問題についての情報の交換、（3）女性研究者の地位の向上と差別の撤廃、を目的に掲げ、これまでさまざまな取り組みを行ってきました。懇話会について知っていただき、より簡便に活動をお伝えするためにWEBサイトも立ち上げています <http://kyotoufemale.blogspot.com/>。これまでの活動や歴史を踏まえ、みなさまとともに今日のニーズに合った新しいかたちを模索しています。どうぞよろしくをお願いします。

連載：研究者になる！第13回

ウイルス・再生医科学研究所・助教 小田 裕香子

●調べること、実験が好きで研究者に

大学時代を過ごした京大農学部。そこは実習が多く友達と一緒に参加することが楽しかったことが思い出され、ゆったりと過ごした学生生活でした。そんな中でレポートを書くために調べものをするプロセスが好きで「研究をもう少し本格的にやってみたい」と思うようになり、大学院は理学研究科を受験しました。

大学院（永田 和宏教授）に入学してからは、新しいことばかりでとても刺激的でした。実験をすること、また先輩方と話をすることも楽しい毎日でした。大学で研究を続けるか就職するか、という何度か訪れる分岐点では、そのたび企業へ就職する迷いがありました。将来への不安から来る迷いでしたが、当時、企業のインターンに参加してみて、自分の将来は結局自分で切り拓くしかないと感じ、それならば自分の考えたことを自由に表現できる大学での研究に魅力を感じました。そういう大小の選択の積み重ねがあって今の道を進んでいます。

●もがき続けた先で見つけたもの

大学院時代途中からポスドク1年間は森 和俊教授（理学研究科）でお世話になり、その間ずっと小胞体ストレス応答の研究をしていました。まさにその分野が大きく発展しつつある盛り上がりの時期に研究に関わらせていただき、幸運でした。その後、月田 承一郎先生が亡くなられた後のタイミングで、縁あって古瀬 幹夫教授（当時神戸大学医学部）にお世話になりました。そこで現在の研究内容でもあるタイトジャンクションの研究を始めましたが、大学院時代と研究分野がガラリと変わったこともあり、テーマをなかなか見つけることができません。クローディングという分子群が見つかった後で、ノックアウトマウスも次々と作成され、やや成熟してきた分野のようにも感じました。やる気や努力が空回りするのが続き、自分自身を責めたり否定してしまったりしたこともありました。研究室の異動のタイミングで、現所属のボスである豊島 文子教授に拾っていただきました。豊島先生の明るい性格とラボの自由な雰囲気の中、クリエイティブなことを考えられる思考回路に切り替わっていき、ラボで購入している妊娠マウスを使って何かできないかと考えました。真っ先に思い巡らされるのは、散々悩んで勉強したタイトジャンクションのことです。タイトジャンクションがどうやって形成されるのかという問いに迫ることは、大きなチャレンジだとずっと感じていました。タイトジャンクション形成を誘

導するような直接のトリガー因子は生体内に存在するのか。あるいはそういったものなど存在しないのか。論文を読み漁っても、こんなクエスチョンそのものがあるのかわからない。それならえいっと、タイトジャンクションをつくらない細胞とマウスの羊膜を共培養する、という雑な実験をしたのがきっかけです。「マウスの羊膜に由来する分泌因子が培養細胞にタイトジャンクションを誘導する」という結果を初めて観察した時、あまりにもびっくりして震えるほどでしたが、同時にこれは何かの間違いだろうとも思い、その後、慎重に慎重に検討を重ねました。石濱 泰教授（薬学研究科）にお世話になり、ペプチドにまみれながら精製に格闘し、石濱研の最先端の質量分析器のおかげでその分子を同定することができました（まさかペプチドが細胞間接着・タイトジャンクションを誘導するとは、夢にも思っていませんでした）。これは、私が双子を妊娠し、出産・産休／育休を経てドタバタの育児と時期が重なったのですが、男女共同参画推進センターの研究補助制度のおかげで研究を進めることができました。

●目の前のことに全力を尽くす

自分の研究の話をした後、“夢あるテーマ”と感動してもらえる日が来るなんて、思ってもいませんでした。このペプチドで、もしかすると炎症やがんが治るかもしれない可能性があり、現在薬にするための技術移転の活動を始めようとしています。

双子育児と研究の両立は想像以上に変化でした。しかし、今の環境の中でできることは最大限しているはずだ、と言い聞かせて目の前のことを一生懸命に、日々の研究に励んでいます。先日、大学院時代の恩師である永田先生に「これで10～20年やっていけるんちゃうか」と励ましのお言葉をいただきました。その言葉に背中を押してもらいながら、今の成果を無事に世の中に送り出し、さらに新しくわかってきていることを自分の手で発展させていきたいです。

編集後記

コラム「みんなどうしてる？」では、「保活入門」の特集を掲載しています。HPのコラムページにも載せていますので、ぜひ引き続きご覧ください。皆様の体験談もお待ちしております！



みんなどうする？保活情報交換会

日時 2019年9月27日（金）12時～13時 途中入退室自由

ランチ持ちより

場所 男女共同参画推進センター <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/about/access/>

詳細は、コラム「みんなどうしてる？」のサイトをご覧ください <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/column/mina/>